

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 水 康徳 編集責任者：桶村清子 34期広報委員会 印刷所：東京印刷株式会社

8月例会開催

～航空自衛隊美保基地司令 野口盛隆氏による「私の体験談」～



平成20年8月18日(月) 米子全日空ホテルにおいて8月度例会が開催されました。綱領唱和の後水会長の挨拶があり、「鳥取県内には事業所が2万7千数百社あるが、1事業所で100名以上の従業員を超える事業所は238社と全体の0.8%しかなく、そんな中で、1千人を超える隊員が鳥取県西部に駐屯する航空自衛隊・陸上自衛隊は、経済人という立場からすると非常に大きな存在である。にもかかわらず、なかなか接点が無いという現実があり、このような機会を通じて接点を持つていくのも我々にとっては大切なことである」と、今回の例会についての説明がありました。



続いて毎月委員長が自由にスピーチ等ができる「委員長タイム」が行われました。今月はNeoラヴィ委員会、川端今日子委員長が担当しました。

「会社の源は何か？ 儲けの源は何か？ 今日の事は今日のうちにやる、何もない所から何かを作り上げる」というような自身の体験からの発表でした。

例会は講師に航空自衛隊美保基地司令 野口盛隆氏をお招きし「私の体験談」というテーマで講演が行われました。司令は現在の職務につくまでは戦闘機のパイロットとして国防の最前線で勤務されていたということです。

航空自衛隊には大きく三つの任務があります。一つは国の防衛、二つめはイラク

人道復興支援活動に代表される国際貢献、そして三つ目は身近なところでの災害派遣です。



美保基地はこれらの任務を全うし国民の負託に応えるために、隊員に命がけの訓練をされており、野口氏ご本人も命がけで訓練にのぞまれています。美保基地においては、主として輸送機による航空輸送が主任務となりますが、輸送機を訓練・整備する美保基地があって、はじめてその能力を発揮することができるのお話がありました。また、過去に起きた事故やわかり

やすい事例を通じて、今日の我が国がかかえる問題点を指摘され、法整備の必要性を訴えられました。最後に「20代、30代の若者が日の丸を背中に背負って頑張っていますし、私を通じて自衛官を知ってもらえれば」と締めくくられました。

自分にとって今回の話は、自衛隊の全然知らなかった問題点がたくさんわかったという点でも、有意義な例会になったと思います。

(記事：竹中)



書記会計説明会 雑感

このたび広報委員会において「書記」という大役を仰せつかりました白石です。そして初めての書記会計説明会に参加させて頂きました。そうそうたるメンバーの中で、いささか緊張いたしました。ロバート議事法に関するDVDをはじめを見て、その緊張もほぐれました。それは平成16年度の人づくり委員会で作られた会議方法を提示したものでした。今ではOBになられた方、そして現役の方が入り混じっての真剣な動物劇。大変ユニークで思わず笑ってしまいました。しかし、周りの説明会に参加している皆さんが、あまりに真面目な顔をしてみられるので、その笑いも口で覆って隠した次第です。各委員会でのロバート議事法の導入は、本当に画期的だったであろうと感じました。また委員会報告書の説明では、簡潔に要点をまとめる、5日以内に委員長チェックのうえ事務局に提出、HPにもアップする…など大切な役割を伝えられました。山根副会長からも最後に「君たちはラッキーだ！自分たちの時はこんなものなかった」と言っておられました。こんな素晴らしいDVDや説明会があるおかげで、何とか頑張っていけそうです。これから「書記」が始まります。日頃鍛えたブロッカーとしての実力？を発揮できたら！と意気込んでおります。

(記事：広報委員会 白石博昭)

エリアデザイン委員会×環境問題委員会 地引網大会 in弓ヶ浜海岸

日時：平成20年8月10日（日）午前6時から午前11時

場所：弓ヶ浜海岸



環境問題委員会とエリアデザイン委員会合同で、地引網大会が、大篠津の海岸で開催されました。当日の集合時間は、朝6時という早い時間ではありましたが、会員やそのご家族など、総勢60名を超えるたくさんの方が集りました。

前日飲み過ぎの会員も、いつもならまだ寝ている小さいお子さんも、眠い目をこすりながら集合。網にかかった魚を狙ってたくさんのカモメたちが寄ってきます。朝日を受けながら海に入っていく漁師さんの合図を元に、一斉に地引き網を引き上げていきます。波打ち際に上がった魚を、キャーキャー言いながら、籠に移していく子供たち。中には自分の体ぐらいある魚と格闘している子もいます。前日

の下見隊の話によれば、捕れた量は前日の5分の1と少なかったと言う事でしたが、さすが「食の都とっとり」キスにスズキに、サバに、アジに、軽トラの荷台に作った仮設の生け簀には、魚が満杯になりました。



地引網の次は、もう一つのメインイベント、海岸清掃です。都会ではなかなか見られない美しい白い砂浜も、ゴミがいたるところに落ちています。子供たちもお母さんやお父さんと、一生懸命ゴミを拾っていました。花火のカスやタバコの吸殻、空き缶にペットボトル。地元で捨てられたゴミと、隣国から流れてきたゴミ。子供たちは何を感じ、どう考えるのでしょうか。私たち大人が環境について

考えなければならぬことはたくさんありそうです。

良い汗を流した後は、お楽しみの朝ごはんです。委員会メンバーが腕を揮い、捕れたての魚を刺身にしていきます。中央会お得意のバーベキューは、牡蠣にサザエに、魚にお肉。そしてキスの唐揚げに、魚の粗汁にと、おにぎりを片手にご馳走を頬張りました。しめくりは、子供達がスイカ割り対抗戦で割ったスイカにかぶりつき、参加者全員楽しい夏の1日を過しました。

自然の生態系や歴史的、文化的な背景をもつ地域、環境に出かけ、それを楽しむと共に、それを保全してきた人々への感謝も忘れないこと、それがエコツーリズムの精神です。自然豊かな鳥取県西部において、地域の魅力を対外的にアピールしていくことと、自然環境を保全していくことは切っても切れない存在でしょう。魚捕りやゴミ拾いに汗を流し、格闘する子供達の未来のために、茅野委員長と森田委員長率いる2つの委員会が開いた今回の合同事業は、大盛況の中、お開きとなりました。（記事：蓼本）



O B 訪 問

西部青年中央会現役時代の思い出
川中修一 O B

私は15期で、たしか5～6年在籍させてもらったと思う。現役卒業以来20年近くになるが、数々の思い出がある。毎年のように開催されていた運動会や家族会は面白かったし、妻や子供達も喜んでくれた。当時、私は弁護士業務が極めて多忙で出席率はあまり良くなかったが、それでも理解していただき大目にみていただいた。

失敗談として痛烈に覚えているのは、野球の試合である。甲子園ボーイであった私は、買いかぶられて、勝っていた試合をフォアボールで自滅し、野球部員に大変迷惑をかけてしまった。その頃は練習もあまりしていなかったし体も鍛えていなかったにもかかわらず、自信過剰でリリーフを引き受けてしまったのである。その夜の懇親会は、穴があいたら入りたい心境であった。

当時の会場は、主として米子食品卸売団地の会館、時として平安閣であった。月1回の委員会と例会に半分程度は出席し、米子に帰って10年頃の時期に友人が多くできたことはありがたかった。酒を飲むことはそれほど多くなかったが、それでも飲み会はかなりあった。キャリアの米子税務署長を迎えて講演会（テーマは「消費税」であったと思う。）を開いたり、その他の講演も、野坂浩賢大先生、大学の先生方などいろいろ貴重なものであり参考になった。中海クルージングを皆と共に楽しんだこともある。トライアスロンの後援はもちろんやったし、がいな祭の花火大会のサポートもした。当時は年齢的に元気があり、周りには多士済々の人が多く、今でも地方の政界、経済界で活躍しておられる。人生の最も良き時期であったと思う。しかし、女房からは、よく家庭を顧みないと小言を言われたものである。

これが私の 変革

revolutionize

皆さん、お盆はお墓参りにいかれましたか？

僕は、仕事でいろんな墓地や霊園に行き、たくさんのお墓を目にします。

いつ行っても掃除されていて綺麗な墓石もありますが、新しい花が飾ってあるのに墓石が汚れている

墓もあります。そんな汚れた墓を見ると、石屋としてはとっても残念に思います。と偉そうに書きましたが、7年位前までお盆休みは普通の連休としか考えていませんでした。

そんな僕がご先祖様に対する考えが変わったのは、祖父の3回忌の法事の時でした。

拝み終わって和尚様が「小さい子供が騒ぐからと言って外に連れ出す人が多いが、お菓子を食べさせてでも、この場に皆が揃っていることがご先祖様にとって大切なことだし、お墓参りも皆が来てくれた方がご先祖様も喜ばれる」と話してくださいました。

それを聞いて墓参りは毎年きちんと行くようになりました。

何年前か、「私のお墓の前で泣かないでください。そこに私はいません〜」という歌がヒットしましたが、この歌は友人の奥さんが亡くなられて、その友人と子供たちを癒すために作ったと聞いたことがあります。すごくいい話のように聞こえますが、その友人や子供たちは全国的に「そこに私はいません」と歌われた墓にお参りに行くのでしょうか？亡くなられた奥さんは、自分の墓参りに来てもらいたいのでは、ないでしょうか？あの歌で家族を、お墓から遠ざけてしまったように感じます。

墓石は、ご先祖様との絆を結ぶ究極のアイテムだと僕は信じています。

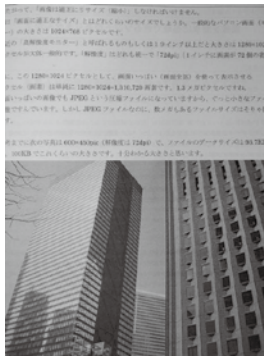
（記事：門脇）

委員会訪問

広報委員会の巻

平成20年8月4日(月)、先月めでたく御卒会されました植田OBの会社「インサイト」において8月の広報委員会が開催されました。役員会報告・各連絡事項の後、畠山監事を講師に迎えてホームページ勉強会が開かれ、中央会におけるホームページの歴史、そして経緯について説明がありました。その中で、当会が全国の青年経済団体としてはいち早く(一番?)サイト立ち上げに着手したという事実には驚かされました。立ち上げ当時には色々な問題があり、それをどのように解決してきたのかという貴重な体験談もお聞きする事ができ、委員会メンバー全員真剣な眼差しで聞き入っておりました。

会場にインサイトをお借りした今回の委員会、この後実際にホームページの更新作業をおこないません。CMS(こんてんつまねーじめんとしてむ)という耳慣れない言葉に戸惑いながらも畠山監事の優しい説明のおかげで、このシステムを使うとページの作成や更新について分担することができると知り、目からうろこが落ちてばかりでした。私のようなパソコン嫌いにとって、こういう作業は非常に辛いものですが、実際にやってみると意外と楽



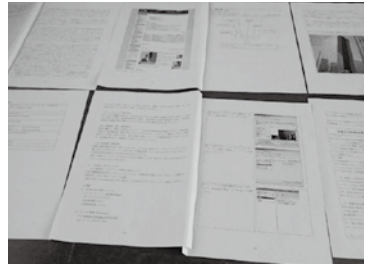
しいものだと分かり、これから他のことにもチャレンジしたいという気持ちになりました。

今回の委員会を通じ、時代の流れの中で中央会ホームページが生まれた経緯について知ることができ、その利便さ、可能性についても知ることができました。しかし便利な反面、ホームページを管理・運営するという責任の重さも感じました。広く一般の人にホームページを見てもらうことは、その内容や言葉づかいについても細心の注意が必要になります。ハンサムなどの広報誌でも同じことがいえるのですが、広報委員会はこれからもこういう場面においてフィルターの役目を果たしていかなければいけないと委員会メンバー全員、再認識できたのではないのでしょうか？

これからの中央会においてWEBを活用することはさらに必須になると思われます。広報委員会に限らず中央会全体でも今回のような実習を通じて正しい活用法を身に付けなければならぬと心から思いました。

最後になりますがお忙しい中、講師を引き受けて頂きました畠山監事、本当にお世話になりました。

また、快く場所を提供してくださいました植田OBにも、この場を借りて深くお礼申し上げます、ありがとうございました。(記事：白石)



中央会の思い出



田中康裕会員

卒会までまだ1年近くもあるのに「中央会の思い出」の原稿依頼とは。しかも依頼主が実弟。いよいよ「死に体」となってきたことを痛感するこの頃。

29歳で中央会に入会したので、16年間も在籍していると色々なことがあったが、95年に景OBが委員長だった地域交流委員会でジュニアトライアスロンを岸本の地で復活させたことが最初に回想される。白紙の状態から全国規模のイベントを単一の委員会で開催にこぎつけたことは今思えば無謀でもあったが快挙でもある。ジュニアトライアスロンはその後中央会の手を離れたが、現在でも伯耆町のイベントとして継続されていることは誇りに感じる。

次に回想されるのは、2000年に情報メディア委員長を任されたこと。委員会活動を通してIT革命を学び、当時としては斬新な協業サイトというネットでの業者間取引を立ち上げた。個人的にはこの延長でネット証券やデイトレードの仕組みを会得し、その後のオンライン株式取引で本業以上のパフォーマンスを得ることができたのは大変実益のある経験でもあった。

もうひとつは2005年に板垣委員長のビジネス交流委員会での打ち上げ旅行の出来事かもしれない。できれば思い出したくないのだが…。M浦OBの卒会送り出しということで京都の木屋町周辺を散々飲み歩き次第に記憶が薄れてしまった。目が覚めたのは京大付属病院の救急室であった。何でも路地で倒れこみ救急車で運ばれたとのこと。旅行に同行した他の委員会メンバーの皆さんは、早朝に病院まで駆けつけて頂き大変ご迷惑とご心配をおかけした事を、この場を借りてお詫びを申し上げる。この出来事は家内にも内緒のままなので、できれば今回のハンサムは自宅には送付しないで欲しい…。

脱メタボ!!

中央会ダイエットダービー開催!

～21頭がゲートイン～



平成20年7月24日(木)、皆生温泉海潮園にてメタボリック対策が必要である方を対象に「中央会ダイエットダービー」決起集会在開催されました。出走の目的は、「メタボリック中央会」の汚名を解消するため、普段1人ではなかなか出来ないダイエットを仲間と競争しながら楽しくおこない、1年後には現在の馬体重の12.5%を減らし、健康的でスリムな会員が会の多数を占めることである。期間中に馬体重が万一「増」となれば、罰則規程も設けられており今回の決起集会在「最後の晩餐」となるやもしれず、大いに飲み英気を養った。中間計測は忘年例会の後。ゴールは来年の7月中旬を予定しています。会員が互いに足を引っ張り合いつつ、目標に到達することをご期待下さい。

ただ、個人的には決起大会終了後、馬体重の計測で生まれて初めて100%の大台となってしまったことが少々ショックでありました。

(記事：内藤幸一)

詩吟のススめ

君も吟じてみないか!?



平成20年9月7日(日)、境港市のシンフォニーガーデンにおいて、(社)日本詩吟学院認可鳥取岳風会の合同温習会が開催されました。小学生(わかあゆ)に
よる可愛らしくも堂々とした吟の後、大人の部のトップを飾り青嵐教場の3名が吟を披露しました。(写真の吟者は桶村副会長)今大会がデビューとなる青嵐教場は、我が中央会の現役およびOB会員9名によって今年4月に結成され、毎月第1・第3土曜日に練習を重ねて参りました。大会後、80代の会員から「青嵐の皆さんのさわやかな声に涙がでた」という最上級の褒め言葉をいただき、何とも言えぬ満ち足りた気持ちを味わうことができました。皆さんも詩吟を通じて先人の「こころ」に触れてみられてはいかがでしょうか?

(記事:須山)

中田新監督就任

～福田前監督お疲れ様でした～



平成20年8月19日、西部青年中央会野球部の監督引継式が行われ、福田一哉前監督から中田耕治新監督に監督ユニフォーム(背番号30)が手渡された。中田新監督のもと一致団結し、中海テレビ杯制覇を誓い合った。
(記事:野口)

8月度委員会報告

政治行政委員会

平成20年8月8日(金)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/9名
議題/・講演 講師 米子市建設部 都市計画課長 山下 徹氏

環境問題委員会

平成20年8月6日(水)於:ウェルネス・イン・ほうき路 出席者/11名
議題/・年間活動報告について
講演 「森林環境に関する現状及び問題 保全活動について」
講師 有限会社 音田工務店 代表取締役 第22期御卒会 音田 猛氏

Neo・ラヴィ委員会

平成20年8月6日(水)於米子食品会館 出席者/11名
議題/・特別委員会開催について
・8月26日(火) デイサービスセンター「ふくよね」にて入浴介護の体験、現場視察

ビジネス委員会

平成20年8月6日(木)於:レストラン ぶどうの木 出席者/11名
議題/・担当例会について
・ホームページの活用について

エリアデザイン委員会

平成20年8月5日(火)於:海潮園 出席者/11名
議題/・蟹饅頭試食
・蕎麦づくり打合せについて

広報委員会

平成20年8月4日(月)於:インサイト 出席者/12名
議題/・9月担当例会について
・HP勉強会(講師 畠山監事)

総務委員会

平成20年8月6日(水)於:焼肉うえば 出席者/14名
議題/・8月例会について
・OB交流会について

県青中の動き

8月定例役員会が、平成20年8月21日(木)ホテルセントパレス倉吉にて開催されました。当日のおもな議題については以下の通りです。
・平成20年度件青中組織図および事務局について
・委員長・副委員長交流会について
・第60回全国大会について
・その他

所属企業変更

朝原直也会員
【変更前】ビーイング有限会社
【変更後】株式会社井木組 米子営業所

9月役員会報告

9月定例役員会が、平成20年9月1日(月)米子食品会館にて開催されました。当日のおもな議題は以下の通りです。
・9月例会開催の件
・第34期委員会別別途事業費について
・その他
*なお、詳細につきましては各委員長までご参照ください。

9月例会案内

と き:平成20年9月16日(火)
と ころ:ホテルサンルート米子
講 演:『青年中央会de寺子屋』
～偉人に学ぶ、我が家の家訓づくり～
講 師:株式会社寺子屋モデル 代表世話役社長 山口秀範氏
担 当:広報委員会

編集後記

鳥肌が立った。『強い!』フィジカル面、技術面もさることながら、その精神力の強さに驚かされた。この原稿を執筆している今まさに北京オリンピックの真最中である。その大舞台で彼が水泳平泳ぎ100mで優勝した瞬間だ。彼の名は北島康介だ。ご存知のように前回アテネオリンピックの覇者である。皆の期待を集める国民的英雄に間違いない。それゆえにプレッシャーは想像を絶するものであっただろう。それに押しつぶされることなくパワーに変えてしまうかのようだ。それがスゴイ。しかし、彼はまわりのいろいろな人に支えられ、助けられているだろう。それがプレッシャーになるのだろうか、一人でやってのけたものではない。それは彼の『感謝』の言葉に表れていた。われわれもそれぞれ背負って立つものがあり、プレッシャーがある。そして家族、会社、友人、中央会ほかいろいろな人に支えられ、助けられて生きている。私はまわりの皆に『感謝』して、プレッシャーをパワーに変える精神力・強い意志をもって行動したい。
(辻)